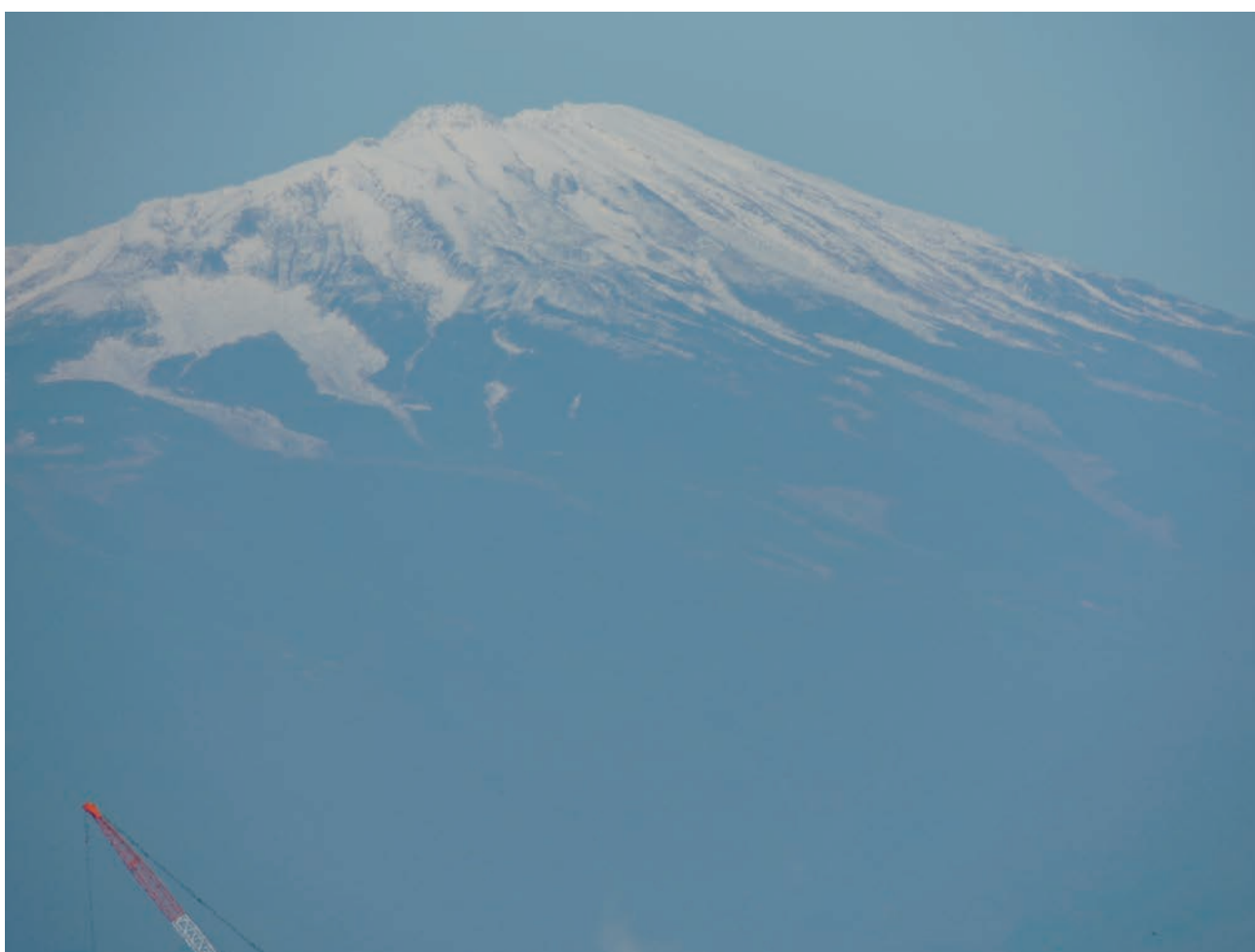


めでいかすとり
Médicastre



「 晩秋の鳥海山頂 」

第39回 市町長・部課長、庄内保健所、荘内病院 こころの医療センター、医師会役員懇談会

日時：令和元年11月20日(水) 18：30～

場所：グランドエル・サン ローブルーム

鶴岡で初雪が観測された11月20日、グランドエル・サンにおいて39回目となる市町村・部課長、庄内保健所、荘内病院、こころの医療センター、医師会役員懇談会が開催されました。

はじめに、来賓として鶴岡市の皆川治市長より「鶴岡市の健康長寿につなげていくためには、この会を通し連携を深めていく必要がある」とのご挨拶をいただきました。

その後の話題提供では、鶴岡市健康福祉部次長 兼 地域包括ケア推進室室長の渡邊健氏より「鶴岡市における地域包括ケア推進の取組について」と題し、今年度から始まっている第2次鶴岡市総合計画の中の『全世代全対象型地域包括ケア推進プロジェクト』について説明がありました。

次に、庄内総合支庁保健福祉環境部保健企画課地域保健主幹 金田真弓氏より、「山形県沖地震（6月18日）被災地区の健康調査について」と題し、山形県沖地震で最も被害が大きかった温海地区の住民に対して、庄内保健所と鶴岡市が連携し健康調査を実施したことについて報告がありました。

最後に、荘内病院手術センター 兼 物流管理センター看護主査の今野香氏より「災害支援ナース活動報告」、続けて荘内病院栄養科 管理栄養主査の富樫博子氏より「災害支援管理栄養士活動報告」と題して、台風19号の被災地である宮城県丸森町での支援活動について報告がありました。

その後会場を隣に移し、三川町阿部誠町長の乾杯のご発声で懇談会が始まりました。会場内は和やかな雰囲気でも和気あいあいと歓談されており、今後の医療連携において欠かせない会であると感じました。当会副会長の福原晶子先生より閉会の挨拶をいただき、会場の熱気が冷めやらぬうちに散会となりました。

荘内地区健康管理センター 健診課 五十嵐 ちづる



渡邊 健 氏



金田 真弓 氏



今野 香 氏



富樫 博子 氏

第 38 回 庄内医師集談会

庄内医師集談会 真家 興隆

日時：令和元年11月24日(日) 13:00～

場所：鶴岡地区医師会館 3階講堂

令和元年11月24日(日)午後1時から、鶴岡地区医師会館3階講堂にて、第38回庄内医師集談会が開催されました。参加医師数は鶴岡地区27名、酒田地区より8名でした。まず、鶴岡地区医師会会長土田兼史先生のご挨拶に始まり、一般演題11題の講演があり、続いて特別講演がありました。

一般演題で三原皮膚科の三原一郎先生は「在宅療養中のALS患者に発症した酒さ様皮膚炎：ICTを活用した皮膚科医としての関り」を発表されました。鮮明な発疹映像を含めて情報共有しうるNet4Uの、在宅診療における有用性を示されました。鶴岡協立病院整形外科の北本亮一先生は、当会連続3回目となる関節内視鏡手術について口演されました。今回は「変形性肘関節症に対する鏡視下手術の実際」についてで、狭い関節腔内をシャープな映像で示され、どのような変形をどのように処置すれば良いかを述べられました。心臓・血圧満天クリニックの阿部寛政先生は「開業医で行った冠動脈CTー開始から1年間の報告ー」を口演されました。80列MDCTによる冠動脈CTの結果報告ですが、CT所見と冠動脈造影所見と綺麗に一致している例を多数示され、冠動脈CTを冠動脈評価のgatewayとして行っていくと述べられました。

一般演題に続いて、国立がん研究センター・鶴岡連携研究拠点 がんメタボロミクス研究室チームリーダー、山形大学医学部客員教授の牧野嶋秀樹先生による特別講演「鶴岡市で行っているがんのメタボローム研究」がありました。鶴岡には慶應義塾大学先端生命研究所があるため、メタボロームなる語はしばしば耳にします。今回の講演



牧野嶋 秀樹 先生

は呼吸器系癌のメタボロームについて検出、検証のお話でしたが実に精力的なものでした。また、このような先端医学研究を支援している鶴岡市の懐深さにも感激しました。

特別講演に続いて、石原良先生の司会により「協議」が行われました。席上、庄内病院院長鈴木聡先生より、「本会の出席者が、歴年減少していること、演題が集まりにくいこと、例会開催に地区医師会の負担が大きいこと」などを理由とした本会の閉会動議が提案されました。これに対して、鈴木伸男先生より「時の流れで閉会もやむを得ない」とする賛成意見が述べられた他に反対もなく、当会の閉会が確認されました。ただ、酒田地区医師会からは、すでに次回例会開催に向けて準備に入っていた旨の発言もあり、今回の第38回例会をもって閉会とするか、あるいは次回第39回を「さよなら例会」として開催するかは、両地区医師会の協議となりました。

庄内医師集談会は鶴岡、酒田地区の医師を一つに交流させた意義ある会です。もし、来年11月、「第39回庄内医師集談会さよなら例会」が開かれるなら、是非、参加したいと思いました。

第15回 健康管理センター講演会

日時：令和元年11月9日(土) 13：30～
場所：鶴岡地区医師会館 3階講堂

荘内地区健康管理センター講演会を11月9日(土)に医師会館を会場として開催し、悪天候にもかかわらず今年も133名と多くの方よりお越しいただきました。

石原良センター長の挨拶の後、今回は湯田川温泉リハビリテーション病院 認知症看護 認定看護師の菅原美智子氏による「加齢によるもの忘れと認知症の違い」、庄内総合支庁 保健福祉環境部医療監兼庄内保健所長の石川仁先生による「食生活情報を活用しての疾病予防」の2題のテーマで講演を行いました。

菅原氏の講演では、具体的な例を挙げて、このケースは加齢によるもの忘れなのか認知症を疑った方がいいのか、また、もの忘れだけではない認知症の症状や予防のポイントを教えてくださいました。わかりやすい内容で聴講者の反応が非常に良かったように思います。

石川先生からは、生活習慣と疾病の発症との

関連を明らかにするために、国立がん研究センターで行っている多目的コホート研究について、インターネット上で公開している「がんリスクチェック」のサイトの紹介を交え、講演いただきました。このサイトでは、調べたいがんや疾患を選択し、続いて喫煙や食生活等の質問に答えると、選択した疾患のリスクがわかるというものでした。このコホート研究は、1990年から約14万人が参加したもので、現在も続いています。データ量によってかなり精度の高いものになっていくものと期待しております。石川先生への質問も多く出され、説明しきれなかった分として、先生からは後日補足資料までご準備いただきました。本当にありがとうございました。

今後も地域住民の皆様の健康につながるような内容を企画していきたいと思っております。

総務企画課 佐藤 洋介



第61回 鶴岡准看護学院戴帽式

日時：令和元年11月14日(木) 13：30～
場所：鶴岡地区医師会館 3階講堂

令和元年11月14日、第61回生戴帽式が挙行されました。半年間の予科期間を終え、19名の学生は晴れて戴帽式を迎えることができました。一人一人にナースキャップが授与され、看護の心を受け継ぎ、ナイチンゲール誓詞を全員で斉唱しました。灯を胸に、まっすぐ前を見つめ、心を一つにして誓ったナイチンゲール誓詞はとても感動的でした。

舟山 遥

4月からの半年間、実習、テストなどがあり目まぐるしく過ぎていったと感じました。戴帽式を終えて、私は看護の道を選んでよかったと改めて思いました。この半年間、つらいことも多くあったけれど毎日が充実した日々でした。これから実習が始まりますが、今まで以上に忙しくなると思うので、自分の体調を整えて、常に向上心をもって実習に臨みたいと思います。

また両親にも私のナースキャップ姿を見ていただくことができ良かったです。卒業まではあと1年半ありますが、クラスの人と協力しながら頑張っていこうと思います。

藤原 まや

戴帽式では19人の気持ちが一つになり、灯の儀のナイチンゲール誓詞は心を込めて斉唱することができました。4月に入学してから今までの約7か月間、苦しかったこと、悔しい思い、悩んだことがたくさんありました。そんな苦難を乗り越えて無事に戴帽式を迎えることができたのは、家族やクラスメイトの支えがあったからだと思います。溢れる思いがあり、胸が熱くなりました。その思いを忘れずに、来週からの実習では目標をしっかりと持ち、積極的に取り組みたいと思います。

足達 和

入学してから半年がたち、自分が目指す看護を学べる嬉しさと、たくさんの事を学ばなければならない大変さを感じました。戴帽式を迎えられるか、不安もありましたが、今こうして無事に戴帽式を迎えることができ、これからの実習に向け新たなスタートラインに立ちました。頑張るのは自分ですが、協力や応援をしてくださる人の支えはとても大きいです。自分の夢のためにも、支えてくれる周りの人たちのためにも挫けず努力し、これからも頑張っていきたいです。ナースキャップが廃止になっている今、看護の象徴であるキャップを戴くことができ、とても幸せに思います。実習や仕事などで辛いことがあった時には、この日のことを思い出し力にしていきたいと思います。



旅行記 ラグビー・ワールドカップ観戦記

鶴岡市立荘内病院 脳神経外科 佐藤 和彦



スタンドの前で

約40年も昔に6年間ラグビーに熱中しました。4年間は全学でプレーしていましたので仲間は工学部や農学部などにおいて仙台リーグに参加していました。その後は医学部を主戦場にしましたが、今よりのんびりした時代でしたので6年生の11月まで大会に出ていました。ラグビーを通じて実に多くのことを学んだと思っています。卒業後は手に傷をつけることが許されずプレーを止めましたが、観戦は続けてきました。20年くらい前までは学生と社会人の力が拮抗しており正月成人の日に学生と社会人が日本選手権をしていました。今では、学生は社会人に全く歯が立ちませんので、その当時は今よりもレベルが低かったのだと思います。しかし皮肉なことに、その頃の方がラグビーは人気がありました。今はトップリーグというプロの試合があり、レベルの高い試合を見ることが出来るのですが、スタンドはいつもガラガラで、サッカーファンの友人には揶揄されてきました。10年前、信じがたいことにワールドカップが日本に来ることになり、楽しみではありま

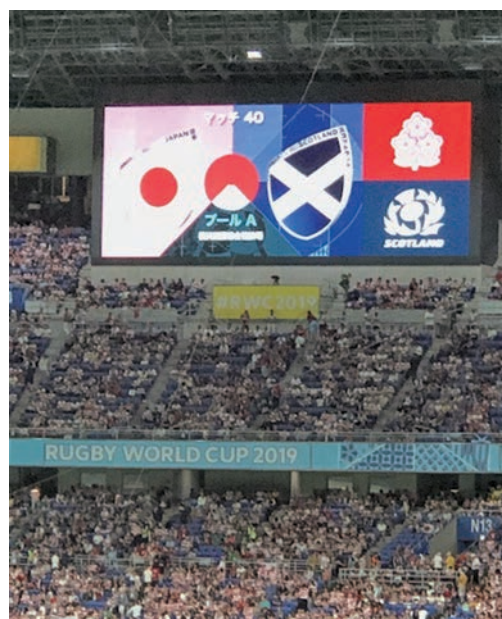
したが心配もしていました。日本開催が決まったとき、日本はジンバブエに一勝したことがある以外は全敗で、予選を勝ち抜くことさえ遥かに遠い夢のようでした。前回のイングランド大会で3勝して日本は開催に恥じないことを示してくれましたが、開催国のイングランドが決勝リーグに出場できなかったように、予選を勝ち抜くことは難しいと思っていました。前回イングランドは、母国チームが敗退しても-host国として大会を盛り上げてくれました。日本では来年のオリンピックに注目が集まりラグビーは盛り上がっていないと感じていましたが、幸い心配は杞憂となりました。3試合をスタンドで観戦しましたが、中でも日本対スコットランド戦は日本ラグビー史上最も重要な一戦となりました。ラグビーが盛んな強豪国をティア1と言いますが、ティア1のチームに勝つことは並大抵ではありません。ラグビーは番狂わせが少なく勝つには必然があると言われ、世紀のGiant killingといわれた前大会の南アフリカ戦は、相手に明らかに油断がありました。今大会の 아일랜드は、世界ランキング2位で前週にスコットランドを一蹴し、日本戦も油断なく臨んできました。その「本気」のティア1に勝って「静岡の衝撃」を見せてくれたJapanは、すばらしいチームでした。3勝で迎えたスコットランド戦は相手にも決勝ラウンド進出の可能性があり、スタンドは開始前から異様な雰囲気でした。サッカーと違い応援は敵味方が混じって座りますが、この日ばかりはJapanジャージを着た人が圧倒的でした。試合はなんと日本が4ト



スコットランドのファンたちと

ライもしましたが、そこからのスコットランドの反撃は凄まじく、手を握りしめ思わず「ニッポン」コールを合唱してしまいました。古くからのラグビーファンとしては、少し気恥ずかしく後ろめたいような体験でした。日本は素晴らしいディフェンスでスコットランドをしりぞけ、「必死」のティア1に勝利してみせました。その瞬間は地鳴りの様な声援に耳が圧迫されました。それでもその後は、相手のファンと健闘を讃え合いスタンドもノーサイドになるのがラグビーです。本当に4年に一度ではなく一生に一度の感動でした。準々決勝の南アフリカは、日本を強敵とみなし隙のない戦いでノーサイド後も好敵手として敬意を示してくれました。日本チームにはニュージーランド、韓国、南アフリカ、サモア、トンガなど多くの国籍の選手がいて、彼らの存在無くしてチームは作れません。サッカーは戦前1930年にワールドカップがはじまり、今まで21回開催され国籍が問われますが、ラグビーはまだ9回と歴史が浅く、一定の条件を満たせば国籍は問いません。イギリス連邦の人たちが英国に留学している時にも国を代表する試合に出場できるようにするためだったと言われています。当初は2つの国から出場できましたが、今は一つの国にな

りました。つまり彼らは母国の代表となる道を捨てて、日本を選んでくれた選手達です。彼らに敬意をはらい愛され続けるような日本であって欲しい、また彼らが日本を選んでよかったと思ってもらえることを願っています。昔は選手交代ができず怪我をすれば少ない人数で戦うなど、今とはルールも違いますが、スクラム最前列の3番が最もハードなポジションであることは変わらないと思います。Japanの3番は韓国人の「具」という選手ですが、彼が怪我で戦列を離れた時の涙とスタンドの声援には胸が熱くなりました。幸い大会を通じて多くの方々がラグビーファンになってくれました。トップリーグには南半球の一流の選手達も多く加わっていますので、ぜひ見に行ってください。秋田、仙台、新潟、東京の秩父宮がお勧めです。新潟と秋田は電車で行けばビールを飲めます。妻と二人で4年後のフランスと8年後のロシア大会も行こうと話していますが、まずはトップリーグをもっともっと多くの人に知っていただき、一緒に楽しめたらいいと思っています。



会場

Introduction 勤務医

「敬天愛人」の街、鶴岡

鶴岡市立荘内病院 小児外科 橋詰 直樹



久留米大学医学部外科学講座小児外科部門より、7月から12月末までの半年間、鶴岡市立荘内病院で小児外科・外科兼任で短期の赴任をさせていただいております橋詰直樹です。私は高知県出身で、平成19年に高知大学医学部を卒業し、初期研修まで高知で過ごしました。小児外科医になるため縁あって専門講座をもつ福岡の久留米に籍を置いております。研修医を終えた後は小児外科のみを経験する毎日でしたが、より幅広い知識を得たく感じ、荘内病院に小児外科・外科兼任で勤めさせていただきました。荘内病院に来るまで成人外科の経験はあまり無く、外科スタッフの皆様にご指導いただきながら地域の外科医療に貢献できるよう、微力ですが努めております。小児外科の領域に関しては、大滝医長と共に精一杯腕をふるわせていただいています。

私が鶴岡に来てまず驚いた事といえば、西郷隆盛への深い親しみではないでしょうか。街を歩くと戊辰戦争の資料や西郷隆盛との歴史を物語った「敬天愛人」の石碑があり、幕末から新

政府に移行する時代に藩の無血和平を保つ事となった感謝の思いを強く感じました。昨年までは「西郷どん」が大河ドラマでも放送されており、久留米を通る九州新幹線にも西郷を彩った車両が走っていました（写真1）。また坂本龍馬の生まれた高知県では、今なお幕末の歴史は小さい頃から教育され、幼稚園のお遊戯会で薩長同盟の演劇をさせられていた私としては、子供の頃から聞かされてきた幕末の歴史の一端を感じられて興味深く、広い日本も繋がっていることを実感しました。

鶴岡地区医師会の諸先生方とも交流させていただき、おすすめの店や観光スポットなどを教えていただいて、退屈することなく過ごさせていただきました。また今回は単身赴任でしたが、夏休みに家族も鶴岡に遊びに来て、加茂水族館やKIDS DOME SORAIなどに行き、息子2人は鶴岡が大好きな街になったようです（写真2）。

最後になりましたが、半年間と短い期間ではありましたが、快く受け入れていただいた三科武先生、鈴木聡院長をはじめ荘内病院のスタッフの皆様にご心より感謝申し上げます。



写真1：久留米駅に発着する「西郷どん」新幹線



写真2：息子2人が参加した鶴岡山王通りおいやさ祭り

山形県学校保健連合会学校保健功労者表彰

この度 栄えある表彰を受けられました。誠におめでとうございます。

長年にわたり地域の学校保健業務にご尽力された功績が認められ、
山形県学校保健連合会会長より表彰されました。(11月22日表彰)

佐藤医院 佐藤 邦彦 先生

医療法人 宮原病院 「病床改編のお知らせ」

会員の先生方には日頃より公私にわたり大変お世話になっており感謝申し上げます。
この度「めでいかすとる」紙面をお借りして、新年を前に医療法人 宮原病院からのお知らせをさせて
戴きます。

令和2年1月1日より病院機能から、有床診療所(病床17床)に改編し、
医療法人 継和会 みやはらクリニック と名称変更となります。
併設の介護老人保健施設「ケアホームみやはら」は従来どおり継続しております。

これまで、昭和、平成と永きに渡り病院機能を維持してまいりました。

今後は内科・一般外科の他、消化器科、循環器科、糖尿病内科の

- ◇ 専門性を活かした外来診療
- ◇ ドック、健診からの疾病の早期発見・早期治療
- ◇ 地域への訪問診療・往診
- ◇ 老人保健施設での高齢者介護の充実

などを柱に、また入院連携は個別に対応させて戴きます。

時代の変遷に対応して事業継承を進めており、新たな名称のもと全職員力を併せて一層の努力を重ね、
地域の皆様の健康と介護に尽力してまいる所存です。

これまでのご支援に御礼申し上げますとともに、今後も引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し
上げます。

令和元年 12月吉日

医療法人 宮原病院
理事長 宮原 信弘
院長 長島 早苗

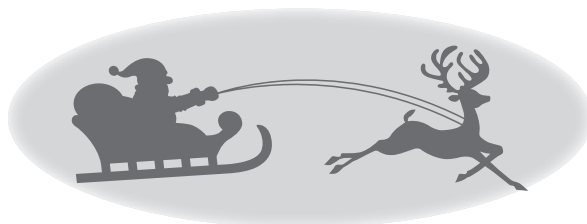


表 紙

「晩秋の鳥海山頂」

三浦 二三夫

今年は何年にもなく県内の高山は遅い初冠雪でした。その初冠雪も限られたところからしか確認できず、あっという間に消えてしまいました。私の記憶では、鳥海山の初冠雪記録は、1964年東京オリンピックの年の9月26日でした。10月10日の開会式の日も快晴で、鳥海山頂でラジオを聞いていました。そんなこんなで、初冠雪をカメラと共に待ちわびているのです。今年は天候不順でそのチャンスにめぐまれず、イライラする日が続きました。11月13日快晴の日、きれいな冠雪が見られました。当クリニックの屋上からのワンカットです。出来は不満でした。また来年を待ちます。

編 集 後 記


早いものでもう12月になりました。皆様いかがお過ごしでしょうか。今年は11月にすでに積雪があり、患者さんの噂によると「カメムシ」が大量発生しているため大雪になるのでは、という話がちらほら聞こえてきます。平成18年豪雪時、置賜総合病院に勤務していた私は看護師さんより「カメムシが大量発生しているから今年は大雪になるよ」と言われ、「ふーん」と聞き流し半信半疑でしたが、その年は本当に豪雪になり、雪のため家に帰れない人のために病院が炊き出しをしたのを強烈に覚えています。その年は吹雪のなか通勤し、ホワイトアウトでどちらが前でどちらに進行して良いか分からず、かといって停車すれば追突事故がおこるので、一瞬見える前の車のブレーキライトをたよりにびくびく運転している最中、バックミラーをちらっとみたところ、後続車が横の田んぼに転げ落ち、仰向け状態になっていた事もまた強烈な記憶になりました。その年、置賜は豪雪地帯なんだな、とあらためて思い知りました。鶴岡は置賜よりは雪が少なく、また温暖化現象なのかもしれませんが、近年は雪が比較的少なく、過ごしやすい冬がつづいたように思います。とはいえ昨年は年末年始旅行を計画し、庄内発羽田を予約しましたが、予約した飛行機が飛ばず、庄内空港、後続の羽田空港でそれぞれ何時間も待っていました。年々雪は少なくなってきていますが今後もお付き合いをしていかなければなりません。今年のカメムシ予想は外れればいいな、と祈りながら日々を過ごしております。皆様も良いお年をお過ごしください。

(木根淵 智子)

編集委員：渡邊秀平・小野俊孝・三科 武・佐久間正幸・木根淵智子・中目哲平

発行所：一般社団法人鶴岡地区医師会 山形県鶴岡市馬場町 1-34

TEL 0235-22-0136 FAX 0235-25-0772 E-mail ishikai@tsuruoka-med.jp

ホームページにも掲載しております  URL <http://www.tsuruoka-med.jp>